

令和2年度 猪名川町立大島小学校 学校関係者評価

【学校教育目標】 自ら考え 自ら解決しようとする児童の育成

めざす学校像	めざす児童像	めざす教師像
・思いやりとやる気に満ちた学校 ・大島らしさのあふれる学校 ・地域とともにある学校 ・共感・共汗・共歓できる学校	・やさしい子 ・かしこい子 ・たくましい子	・確かな専門性と指導力を身につけた教職員 ・豊かな人間性と情熱をもち、すべての子どもを大切にする教職員 ・研修に励み、創意工夫し、変革に挑む教職員 ・バランス感覚に優れ、保護者・地域から信頼される教職員

(A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない)

(◎適切である ○ほぼ適切である △あまり適切でない ×適切でない)

学校関係者評価総評
・今年度は、コロナ禍の中で、制限はあるものの対策をし、子どもの学校生活を守っていただき、「めざす学校像」が随所に見られた1年だったと思います。 ・コロナ禍で地域との交流が難しくなっていますが、子どもたちの成長の一助になれるよう何かあれば協力はしたいです。学校は、よくがんばっておられると思います。 ・個々の人間性に即した教育を考えてほしい。よろしくお願いします。 ・今年度は、コロナウイルス対応に大変苦労されたと思いますが、その中でも、子どもたちが現在できることを一番に考えて学校運営をしていただき、ありがとうございました。 ・まだ少し学校と地域(OB)の一体感が弱い。 ・コロナ禍でも工夫をこらした活動を取り入れ、地域との関わりを大切にする意識がよくわかった。子どもたちの内面を豊かにする取り組みに期待する。

領域	評価の観点	教 職 員									改 善 方 策	自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	学校関係者評価委員の提言
		評価基準		A	B	C	D	無	AB評価					
学校運営	開かれた学校づくり	学校便り、学年便り、ホームページなどで教育方針や教育内容など、学校情報を積極的に発信している	72%	27%	0%	0%	0%	100%	100%	A	・HPの更新を随時行い、学校の情報をリアルタイムで発信する取組を今後も継続する。 ・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、地域との関わりをもつことが難しかった。しかし、職員が「地域立学校」の意識をもって、できることを取り組んでいく。 ・保護者も参加できる教育活動をさらに工夫し、本校の教育を理解してもらうための取組を進める。 ・保護者以外にも地域の方々が気軽に学校に来てもらえる工夫を進める。 ・小規模校の特色を生かした学校づくりをすすめ、発信する。	○	◎	・地域の方々が、気軽に学校に来るのはいいが、安心安全な学校との両立を考えてほしいです。 ・今年度はコロナ禍の中、保護者や地域住民の方々は学校に行き来できなかったですが、リアルタイムにHPの更新を行っていただき、学校の情報を発信してもらえ、ありがたかったです。 ・HPについて、今後も継続をお願いします。 ・HPの行事予定表(pdf)が見れない人がいるようなので、改善する必要があると思います。 ・学校通信「大野山」を自治会回覧で見てもらえるようにできないのか？(地域の方にもっと知ってもらう) ・さらに具体策、今一步の踏み込みがほしい。 ・地域立とは何か？地域があって、学校がある。 ・地域の人々がもっと「HPを見よう」と思うきっかけ作りを加えることで、改善内容が達成していくのでは。
		学校の教育活動に保護者や地域の方に参加していただけるように努めている	45%	55%	0%	0%	0%	100%	100%	A				
		地域の行事や活動に参加するなど、積極的に地域と関わりを持っている	36%	55%	0%	0%	0%	100%	100%	A				
	学校組織 教職員の資質向上	教職員が校務分掌を責任を持って果たし、組織が十分機能している	18%	82%	0%	0%	0%	100%	85%	A	・前年度よりもさらに組織として機能するために、校務分掌を見直す。 ・各種委員会を効率的に行うため、水曜日の放課後の使い方を精選していく。 ・教職員一人で抱え込むのではなく、“チームおおしま”で何事も取り組んでいく。 ・一人ひとりの児童の特性に対応できるようにするために、「合理的配慮」を具体的に実践するための研修をさらに進める。 ・学力向上に向けた取組の成果をふり振り返りながら、効果的な取組をより一層推進する。 ・昨年度より校内研究を体育とし、児童の学習に向かう力の育成に取り組んできた。今年度は、子ども同士がお互い高められる関係づくりにも取り組む予定であったが、コロナ禍の中では難しかった。その代わりに、個々の技能向上を図った。	○	◎	
		職員会議やその他委員会が効率的に行われている	0%	100%	0%	0%	0%	100%	100%	A				
		教育目標やねらいに沿って教職員が協力して取り組んでいる	9%	91%	0%	0%	0%	100%	100%	A				
		研修テーマが大島小学校の課題に即しており、充実している	9%	82%	0%	0%	9%	91%	92%	A				
	校種間連携	幼小中の連携を推進するための組織や計画が確立されている	0%	91%	9%	0%	0%	91%	77%	A	・今年度は、中学からの出前授業を増やすなど、幼小、小中の学校園間の連携をより深めていく予定であったが、なかなか実行できなかった。しかし、三校一園で、それぞれが抱えている課題を交流する機会があった。六瀬中学校区の強みと弱みを共有し、スムーズに進学できるように、また進学後も落ち着いて生活できるようより連携を強め、具体的な手立てを検討する。 ・六瀬中校区としての特色を打ち出せる教育実践を幼稚園・小学校・中学校の連携によって具体化していく。 ・中学再編についても、スムーズに中学進学ができるよう、楊津小や松尾台小の子どもたちとの交流を始める。	○	◎	・これからは特に中学校再編を意識し、交流事業をどんどん進めてください。 ・中学校再編まであと1年余りとなりましたので、何事もスムーズに移行できるように、今後も他校との連携や交流、よろしくお願いします。 ・今年度は、コロナの影響で、何事も難しい1年でしたが、来年度は再編に向けての取り組みをしっかりとできればと思います。 ・6年生は、中学校への不安が多々あるようなので、オープンジュニアとは別に中学校から直接話を聞ける機会wo作ってあげてほしい(ゆっくりと…)。 ・「交流」「連携」が形ではなく、意味のあるものにするため、その意味を考え内容を具体的ににする必要がある。
		幼小中の学びの連続性を踏めた指導を心がけている	0%	82%	18%	0%	0%	82%	69%	A				
	学校の情報化	ICTを活用して授業を進めようとしている	18%	82%	0%	0%	0%	100%	92%	A	・今年度より、一人1台タブレットを使っている。教職員も研修等うけて、積極的に活用している。電子黒板やタブレット等、授業で効果的に活用できるようさらに研修を深める。 ・情報モラルの授業を今後さらに進めていく。特にスマートフォンやゲームの通信の適切な使い方については、高学年だけでなく低学年にも年に一度は確実に行うようにする。 ・情報の整理と管理をさらに徹底していく。	○	◎	・通信機器が使用されることで起きる危険性も、時には保護者、子どもにお伝えください。 ・学校の情報が悪用されないようセキュリティを確実にする。 ・限られた学習時間を効率的にするためにも、ICTの活用は良いと思います。 ・ICTの活用が子どもたちが理解するために、必要とする「時間」を奪ってしまわないように、使用の仕方を深く学ぶ必要がある。
		校務用PCを活用し情報の共有や業務のスリム化に寄与している	18%	73%	0%	0%	9%	91%	100%	A				
		電子データ、紙媒体など種類にかかわらず、情報管理を徹底している	0%	91%	0%	0%	9%	91%	90%	A				
	信頼される学校づくり	保護者が安心して子どもを通わせ、子どもの成長に満足している	18%	82%	0%	0%	0%	100%	100%	A	・「あいうえおおしま小学校」を合い言葉にした学校づくりをさらに推進する。 ・今年度は、家庭訪問やクラス懇談会を行うことができなかった。しかし、必要に応じて家庭と連絡を取り合った。今後も業務改善を図りつつ、説明責任を積極的に果たしながら、家庭や地域との連携を深めていく。	◎	◎	・コロナで学校に行く機会が少なかったが、保護者は担任、学校とコミュニケーションがとれていたのか。

確かな学力	教育課程	授業日数、授業時数の配当及び時間割、校時表が適切かつ効果的に配当されている	27%	64%	0%	0%	9%	91%	92%	A	・年度はじめの休校で遅れた学習を、プリント学習など工夫しながら取り戻すことができた。しかし、学習に対して不安を抱えている子もいるので、復習や苦手なところのフォローをしていく必要がある。 ・学校行事は、ただ単になくすのではなく、子どもたちが達成感や満足感を味わうことができるものを実施しながら必要に応じて精選し、授業時数の確保に努める。 ・新学習指導要領に準じた生きる力(確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成)を育むカリキュラムの創造を図る。 ・言語活動を充実させるために、ペアトークなど授業中に発言する機会を増やしたり、教師対子どもの授業にしないなど子どもの発言をつなぐ授業の創造について研修をしたり、教職員間で交流する場を設定する。 ・1時間の授業でどんな力をつけるのか明確にするためにめあてを提示し、教師だけでなく子どもたちも意識しながら日々の授業に臨む。 ・補助教材などを活用し、学習の基本となる「聞く力」「話す(伝える)力」をつける。 ・単元テストや標準学力調査などの結果を分析し、大島の児童が得意とするところをさらに伸ばし、苦手とするところは補充していく授業を行う。	○	◎	・4月5月の休校のあとの学習の遅れは大変なご苦労があったことと思います。来年度もまだまだ学校行事等に規制があうと思いますが、子どもたちにとって何が大切か、しっかり検討していただきたいです。 ・子どもたちの考えに寄り添って学校行事をしてくれ、自分たちでコロナと向き合いながら学校生活をつくろうという子どもたちの思いも育てることができたのではないかと思います。 ・「体験」と「楽しさ」が小学校での一番大切な学びだと考える。 ・「なぜかな?」「どうしたらいいだろう?」という考える時間を大量の学習内容量の中に十分に入れる工夫が必要であるし、それが他の分野にも良い働きとして出ると考える。
		指導内容・指導方法の工夫など、わかる授業づくりに取り組んでいる	0%	91%	0%	0%	9%	91%	92%	A				
		言語活動の充実や体験的な学習を取り入れている	0%	73%	18%	0%	9%	73%	92%	B				
	特別支援教育	特別支援教育に対する理解を深め、教職員の共通理解のもとサポート体制が整備されている	9%	91%	0%	0%	0%	100%	100%	A				
個別の指導計画に基づいて指導方法を工夫し、児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導を実践している		9%	73%	18%	0%	0%	82%	92%	A					
関係機関や専門家との連携が円滑に行われている		27%	73%	0%	0%	0%	100%	92%	A					
	進路指導	児童に将来の夢や希望をもたせ、仕事や働くことの大切さを教えている	18%	73%	9%	0%	0%	91%	92%	A	・キャリアノート(小学校から中学卒業までに、自分の生き方や将来についての学びを記録していくもの)の取組をさらに推進していく。	○	○	・高校生や大学生など、進路や将来についてリアルな話を聞く機会が必要では? ・将来のことを聞くこと以上に、社会の中の仕組みやつながりを深く学ぶことが、将来への興味につながると考える。
豊かな心	生徒指導	教職員の共通理解のもと、問題行動の未然防止に努めている	18%	82%	0%	0%	0%	100%	100%	A	・挨拶をする、履き物をそろえる等、人として大切なことができるように指導する。特に挨拶の指導については、児童会のあいさつ運動だけでなく、例えば学年ごとにあいさつ運動をするなど、あいさつをするための方法を考える。 ・児童朝会など、さまざまな機会をとらえ、大切にしてほしいこと、守ってほしいことなどを子どもたちに伝えていく。また、その伝え方も、ICTを使ったり、子どもたちから呼びかけたりするなど工夫する。 ・生活指導委員会の定例化を図り、子どもの実態についての情報交流を図ると共に、問題行動の未然防止に努める。 ・今年度は、定期的に行っている児童交流に、スクールソーシャルワーカーに参加してもらい、子どもたちの様子を知ってもらった。 ・いじめと思われる事案が発生した場合は、担任だけで対応するのではなく、いじめ対応チームをはじめ、全職員で関わる。 ・職員間の共通理解のもと、1年間を見通した指導を行う。 ・今後もスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門家と連携し、一人ひとりに寄り添った対応をするとともに、必要に応じて保護者、関係機関を交えたケース会議をもつ。 ・学校に行きにくい子どもに対しては、保護者と連携を図りながら、関係機関につないでいくようにする。	○	◎	・相手のあいさつを待つのではなく、自分から先にするよう指導してほしい。 ・最近は、子どもたちに会う機会が減ってしまいましたが、あいさつの声の大きさはどうでしょうか。マスク着用で、なかなか大きな声は出しにくいと思いますが、しっかりあいさつは指導していただきたいです。 ・小さないじめを発見するために、定期的にアンケートを取ってみてはどうでしょうか。 ・コロナの影響等で、臨機応変な対応を求められることが多く、教職員の方々も疲労が溜まっていることと思いますが、活動が制限され、子どもたちはストレスや疲れを溜め込んではいないか。(ストレスからの問題行動?) ・子どもたちの情報収集(家庭環境等)も大切に、共有しておいてほしい。 ・あいさつは生活の基本。いつでも、誰にでもできるよう指導を願う。先生を、保護者を、児童が、地域が見ている! ・いじめの現実をオープンにしてほしい。 ・教育課程への意見と同様「ルールとして守る」以前に「なぜ?」「どうしたら?」を考えることが、子どもたちの内側からの変化につながると考える。
		学習規律を身につけさせ、好ましい人間関係と豊かな集団生活が営まれる学級づくりができています	18%	82%	0%	0%	0%	100%	92%	A				
		児童の内面理解に努め、スクールカウンセラー等の教育相談が効果的に機能している	18%	82%	0%	0%	0%	100%	85%	A				
		いじめは絶対に許さない毅然とした態度を示し、いじめの早期発見、解決に向けた体制を確立している	36%	64%	0%	0%	0%	100%	92%	A				
		道徳教育	全体計画が作成され、全教育活動の中で道徳性を育成するよう取り組むとともに道徳の時間の指導を工夫している	9%	82%	0%	0%	9%	91%	100%	A	・教科としての道徳について、カリキュラムや評価のしかたについて問題はないか検証し、実践を蓄積していく。また、人権学習との関係性も考える。	○	○
	人権教育	人権教育指導計画にもとづき、全教育活動の中で、人権意識を高める指導を工夫している	9%	91%	0%	0%	0%	100%	92%	A	・道徳の教科化に伴い、人権教育のカリキュラムについての見直しを進める。 ・地域と連携した本校の歴史についての研修を、これからも継続する。 ・研修などを通して、職員も一人の人間として人権感覚を磨き続けることや、職員全体の意識を高める。	◎	◎	・今後も職員の方全員で、人権学習の研修継続をよろしく願います。 ・今後も引き続き、よろしく願います。
	特別活動	行事の内容が充実するとともに、望ましい集団活動を通じて自主的・実践的な活動の活性化が図られている	0%	100%	0%	0%	0%	100%	92%	A	・カリキュラムを見直しながら行事を精選すると共に、各教科や総合的な学習との連携を図ることで大島小学校としての特色を打ち出せる実践に取り組む。 ・様々な行事や体験活動を通して、子どもたちが自ら考え、自ら解決する力をつけるための指導を工夫する。 ・児童会活動や委員会活動など子どもたちの主体的な活動を増やす。また、みんなの前で「話す」「伝える」経験を増やす。	◎	◎	・コロナだったからできた活動もあり、今後も工夫をして、保護者と地域と共に子どもたちにたくさんの経験をしてもらいたい。 ・より良いものにするための工夫や話し合いが「自分の意見を言う」ことへの壁をなくすことにつながる人間関係作りになると良い。
	危機管理体制の整備	災害や事故発生時のマニュアルが整備され、全教職員が共通理解して実行に移せる	23%	77%	0%	0%	0%	100%	100%	A	・コロナ禍のため、避難訓練の実施が難しかった。また、不審者対応や引き渡し訓練が実施できなかった。内容を工夫して、各学期ごとに行うようにする。 ・マニュアルを見直し、より一層の整備を図るとともに、それぞれの役割やいざという時の適切な行動についての周知徹底を図る。 ・安全点検を徹底し、事故防止に努める。	○	◎	・ミマモルメを全家庭登録することが不可欠。 ・不意打ち訓練が必要なのは? ・「危険だから止める」ではなく、「どうすれば実行できるのか」という視点での取り組みが学校活動内容を豊かにしていけるカギだと考える。
		避難訓練等を実施し、緊急時に児童が命を守る行動がとれるよう指導ができています	31%	69%	0%	0%	0%	100%	100%	A				

健康・安全		研修や訓練を通して、教職員の危機管理に関する実践力を高めている	15%	85%	0%	0%	0%	100%	100%	A	・引き続き、コロナ対策に対しても、職員全体で共有、理解する。			
	健康・安全	健康で安全な生活ができるための指導ができている	23%	77%	0%	0%	0%	100%	100%	A		○	◎	・地域の方の協力もあり、校内のコロナ対策は徹底されていると思いますので、引き続きよろしく願います。 ・高学年が低学年を指導する観点がほしい。それが、児童の将来につながる。大人たちの指導だけでは一過性で終わる。 ・「危険だから止める」ではなく、「どうすれば実行できるのか」という視点での取り組みが学校活動内容を豊かにしていけるカギだと考える。
		施設・設備の点検を定期的に実施し、清潔で美しい学習環境が整っている	23%	77%	0%	0%	0%	100%	100%	A				
		健康な食生活を送るための指導が計画的に行われている	23%	69%	8%	0%	0%	92%	92%	A				

評価 A:80%以上 B:70～79% C:60～69% D:59%以下